

## 「金唐紙研究会」

### < 研究事業のテーマ >

- ・ 県内伝統の和紙や漆を使用した、革製品と同程度の強度、手触り、耐久性をもつ新たな金唐紙製造方法の開発と、製品化に向けてのデザイン開発を行う。  
名刺入れや小銭入れなどの小物から製品化し、2005年の愛知万博への出品を目指す。

### < 成果 >

- ・ 座長であるオークビレッジ 稲本正氏の指導のもと、試作品2点の作製に成功した。  
1点は美濃和紙に柿渋を塗った名刺入れ  
もう1点は美濃和紙に柿渋と漆を塗った財布（札入れ）
- ・ 第1回研究会において、法政大学社会学部 田中優子教授を招き、講演会「江戸時代における金唐革の歴史について」を開催し、金唐紙、金唐革の知識を深めた。
- ・ 金唐紙に最適な柿渋と漆の配合を研究した。
- ・ 革製品と同様のエンボス加工（凹凸をつける）および金箔加工技術開発については、今年度の調査研究では達成できず。

### < 研究会開催 >

研究会を計4回開催した。

- ・ 第1回研究会（平成15年8月7日）  
テーマ：研究会の進め方及びメンバーの役割分担について  
講演会開催：法政大学教授 田中優子氏による「江戸時代における金唐革の歴史について」
- ・ 第2回研究会（平成15年9月27日）  
テーマ 1．試作品開発における進捗状況（各メンバーからの中間報告）  
2．試作品作製までのスケジュール再確認  
（次回までに素材の完成、最終回で、財布、小物入れ等の試作品完成）
- ・ 第3回研究会（平成16年1月28日）  
テーマ 1．試作品製造に使用するサンプル（素材）の決定  
2．試作品製造に関する問題点  
（技術的問題、縫製業者選定、サンプル作製数など）

・第4回研究会（平成16年2月26日）

- テーマ 1．試作製品の検討（財布2種完成、美濃和紙＋柿渋、美濃和紙＋柿渋＋漆）  
2．来年度の活動方針について（岐阜県のプロダクトデザイン補助事業に申請）